

—生きることは分かち合うこと、弱者と—

PHD LETTER

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

PHD LETTER
Volume

158

2025.3

公益財団法人PHD協会

研修生招聘40期

皆さまへの感謝を込めて

P.2-6

研修生
RE

個人情報保護の為、
一部内容を伏せて掲載しています。
ご了承くださいませ。

Contents

- P.2-6 2024年度研修生レポート
 - P.2 共通研修・研修旅行
 - P.3-4 チャチャさん/インドネシア
 - P.5-6
- P.7-10 ネパール出張レポート
- P.11-12 居住支援事業報告
- P.13 国際協力・交流シェアハウス「みんなのいえ」便り
 - 日々是東奔西走
- P.14 PHD活動紹介 2024年11月～2025年2月
- P.15 PHD News



PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

公益財団法人PHD協会

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげ、平和(Peace)と健康(Health)を担う人づくり(Human Development)をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年に今井鎮雄(初代PHD協会理事長)と共にPHD協会を設立しました。

PHD LETTER 158号

発行：公益財団法人PHD協会
住所：〒653-0836 神戸市長田区神楽町3丁目7-4
電話：078-414-7750
FAX：078-414-7611
E-mail：info@phd-kobe.org
URL：http://www.phd-kobe.org/

表紙写真/2024年度第40期研修生のチャチャさんとミーミーさん
(山梨英和中学校・高等学校のグリーンバンクチャペルにて)



温故知新 岩村語録 その30

～農業研修だけではなく平和学習～

岩村教授が研修地に広島を選んだのは、(中略)被ばくしている体験から、「技術ばかりではなく被爆の実相を知り、平和を考えてもらいたい」との願いがあった。

(中国新聞 1982年12月3日掲載「ネパール青年らきょう広島訪問」)

岩村先生が大切にされた平和学習は今も続く。世界で平和が脅かされている今こそこのメッセージを大切にしたい。そしてこの記事にあるネパール青年とは当時31歳だったバート・ビスタさん。第1期研修生としてSSSという団体を設立し、地域にクリニックを設立するなど大活躍されたが、P.8にもあるように勇退された。長年の働き、お疲れ様でした。(さ)

PHD 2024年度 研修生レポート

2024年度の研修事業が無事終わり、ミーミーさん（ミャンマー）、チャチャさん（インドネシア）は3月10日にそれぞれの国へと帰りました。ホストファミリーの皆様、研修先でお世話になった指導者の皆様、支えてくださった皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

研修生は1年間の研修でたくさんの学びや気づきを得ました。それらをもとに、彼女たちが自分の村や寺の問題の解決に向けた帰国後の活動計画を考えました。是非ご覧ください。

研修担当 内堀友晴＝文

2024年度 共通研修

- ・ 淡路島モンキーセンター
（残留農薬とリーダーシップ/兵庫県洲本市）
- ・ 生活協同組合コープこうべ協同学苑
（協同組合/兵庫県三木市）
- ・ 旅路の里（釜ヶ崎/大阪府大阪市）
- ・ 浜地律知さん（口腔衛生/兵庫県神戸市）
- ・ 三木市総合保健福祉センター（保健衛生/兵庫県三木市）



2024年度 研修旅行

東日本研修旅行 11月5日～11月9日

- ・ 東京都 全日本自動車産業労働組合総連合会、日本労働組合総連合会、ユニセフハウス、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
- ・ 山梨県 山梨YMCA、山梨英和中学校・高等学校
- ・ 岐阜県 中濃教会

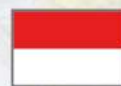
西日本研修旅行 1月22日～1月30日

- ・ 鹿児島県 だるま保育園
- ・ 熊本県 水俣市立水俣病資料館、一般社団法人きぼう・未来・水俣、国立療養所菊池恵楓園
- ・ 福岡県 北九州市立祝町小学校、アジアを考える会・北九州、世界平和パゴダ、タカミヤ環境ミュージアム
- ・ 山口県 岩国みなみワイズメンズクラブ
- ・ 広島県 広島平和記念資料館、原爆ドーム、一泰治さん、平和記念公園



子どもたちに伝えたい

おやつを通して健康について

チャチャさん
インドネシア

研修担当 内堀友晴＝文

村の人の健康を守りたい

チャチャさんは農業の研修を行っていく中で、収穫量を安定させ、野菜を大きく育てるために肥料や農薬を多用するタベ村の一般的な野菜の作り方に疑問を持つようになりました。村の人達の健康を守ることはチャチャさんにとって研修の大きなテーマとなりました。自分の畑で日本の研修で学んだことを生かした野菜作りを行い、村全体で健康について考える機運を高めたいと考えています。

食品加工の研修では徹底的な衛生管理が必要であること、そしてクッキーやパンの基礎的な作業工程について知りました。また指導者の方から美味しく作るポイントなどを学びました。

「村の人達の健康を第一に考える」というチャチャさんの思いを食品加工の研修で得た知識や経験を応用して、実践したいと考えています。彼女はタベ村の野菜を使い塩分や砂糖を抑えた身体に優しいお菓子を作りたいというプランがあります。このプランは研修を通して学んだ農業と食品加工の気付きや学びを一体にして、村全体の健康を支えるチャチャさんらしいアイデアだと言えます。

村の人と一緒に

チャチャさんは食品加工で学んだレシピや調理方法を村の人達に共有するワークショップを開きたいと考えています。例えば育ち盛りの子どもがいる親たちが衛生管理や栄養について学べるような場を提供していきます。オープンや冷蔵庫といった設備面での課題はありますが、チャチャさんはタベ村の人達に健康の重要性を伝えていきます。



タベ村から元研修生が来日しました！

長年タベ村のリーダーとして地域を支えてきたダスウィルさん（17期・1999年度/短期2018年度）とエルリナさん（21期・2003年）が2月から3月にかけて約1週間ほど来日しました。滞在中は先輩としてチャチャさんの研修を見守りました。

11月～3月のチャチャさん

11月25日～11月29日
ワークセンターわかまつ
(食品加工/兵庫県神戸市)



12月16日～12月20日
くららベーカリー
(食品加工/兵庫県神戸市)



1月9日～1月16日
てらだ農園
(食品加工/兵庫県豊岡市)



2月5日～2月6日
株式会社小田垣商店、株式会社梅角堂
(食品加工/兵庫県丹波篠山市)



2月11日
Ti's farm
(食品加工/兵庫県神戸市)



3月1日 帰国報告会
3月10日 帰国



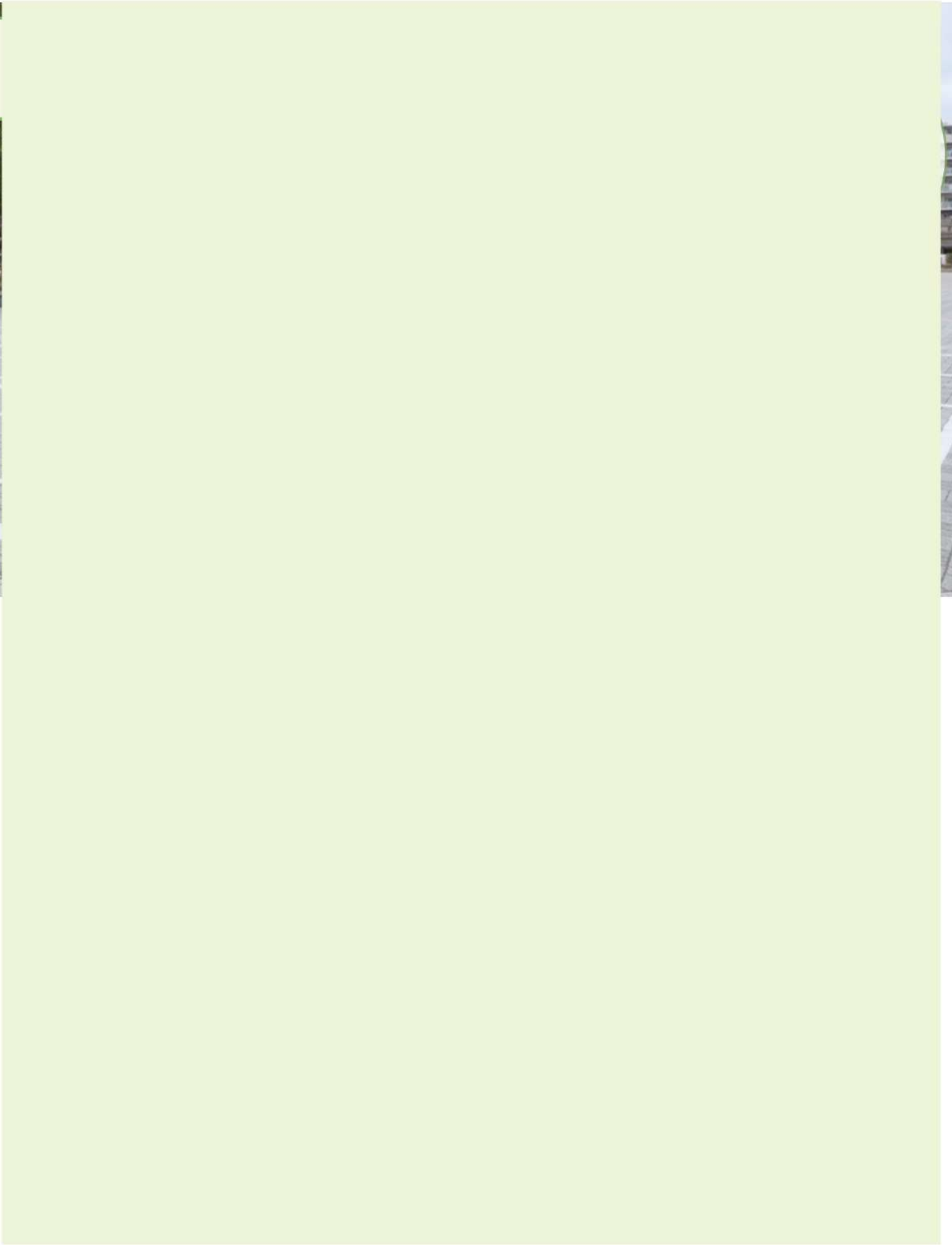
Report

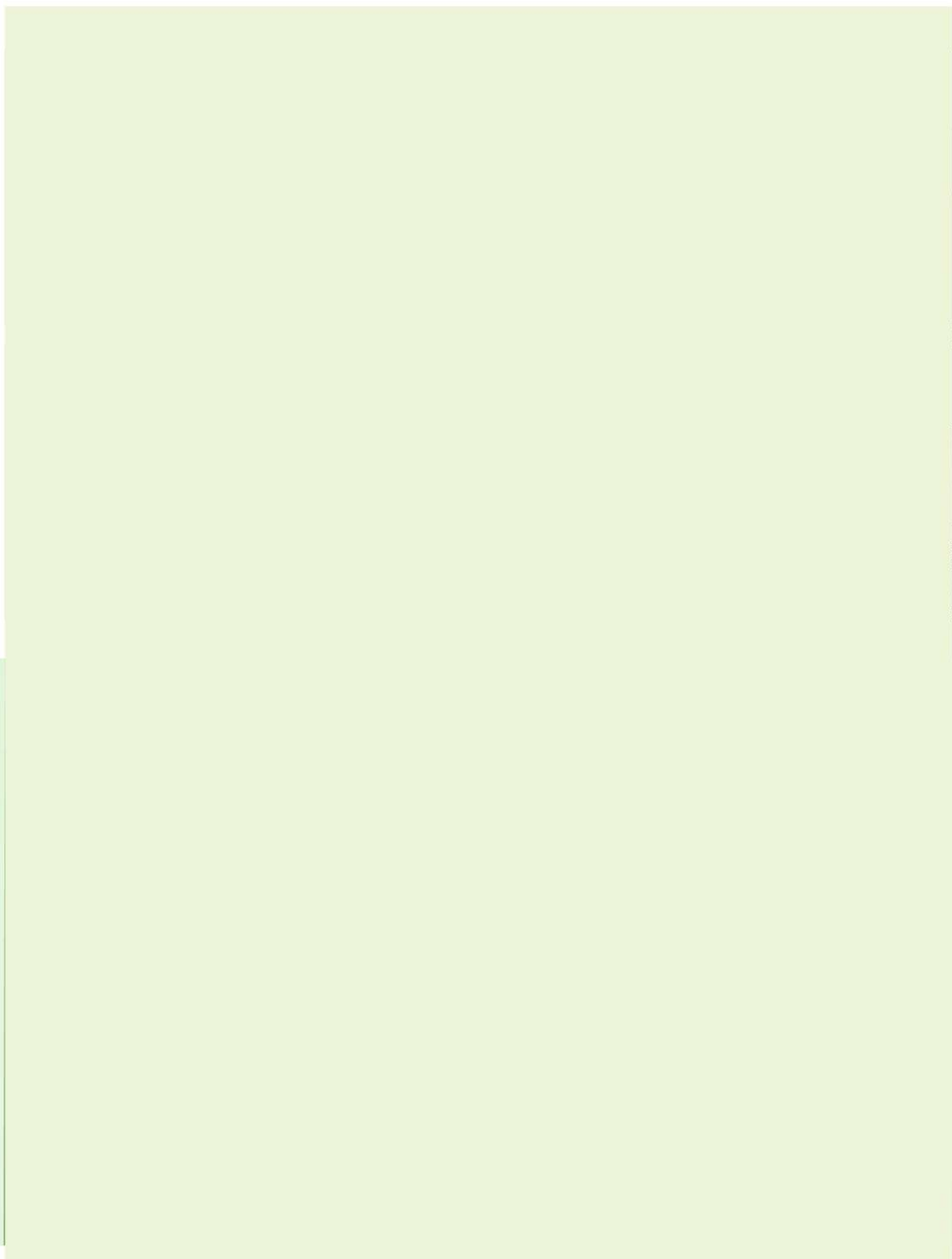
日本の1年間のけんしゅうで「まなんだ」と
わたしは日本のうぎょうはたくさんべんき
うをしました。たねのうえかた、みずやり
のうやく、みりょうのことをまなびました。
ゆうきのうぎょうのこともべんきうしま
した。わたしは夕べからひとりのけんこう
をまもるために、のうやくや、みりょう
のことをかんがえていきたいです。そして
夕べからのひと、のうぎょうについて
いっしょにはなして、やさしいをつくり
たいです。
わたしは日本でしょくひんかこうをばじ
めてべんきうしました。わたしはクッキー
とパンとタルトなどをつくるのを

べんきうしました。日本のしょくひん かこう
のばしょではしろい せいふくをきて、
つめをきれいにします。とても おどろ
きました。タルト、クッキー、かどろうしたら
おいしくなるかも べんきうしました。
きれいにパッキングをして夕べから
でクッキーやタルトをうってみたい
です。

日本でおおくのことをまなぶことが
できて、とてもよかったです。あたしが
のうぎょうとしょくひんかこうを べんき
うしたときはみんな とても しんせつ
で あたしを サポートしてくれました。
夕べからにかえたら、日本で「まなんだ
ことをいかして夕べからのひとに
おしえたい」とおもっています。

リザ マルディアニ
イバネシア







デリさん

アチャンマさん



ネパール出

元研修生たちの今

ランマヤさん（30期・2012年度/短期2015年度）

「地域の女性は私を頼ってくれる。だから私は頑張ります」

ランマヤさんは、カブレパランチョークで助産師として活躍しながら、5歳の息子を育てています。彼女はバート・ピスタさん（1期・1982年度）が設立したSSS（サマ・セワ・サムハ）のクリニックで10年間働き、地域の女性たちの健康を支えています。

PHD研修を終えた当初、農業の知識を地域に伝えようとした。しかし、当時のネパールでは女性の地位が低く、特に若い女性の意見は軽視されがちでした。農業を担う男性たちは、経験の浅い若い女性の話に耳を傾けようとせず、地域に知識を伝えることは容易ではありませんでした。理解を得られず悩む中、資格があればより地域に貢献できるはずと考え、21歳で助産師になることを決意。2年間で資格を取得しました。その背中を押したのは、同じPHD研修生で助産師のウルミラさん（28期・2010年度）の存在。そして、支えてくれた家族への感謝の思いを語るランマヤさんの瞳には、涙が浮かんでいました。

現在、SSSでは助産や妊婦検診、家族計画の支援を行っています。ネパールでは女性が自分で避妊方法を選ぶのは難しく、学校での性教育も不十分です。だからこそ、彼女は女性たちに知識を届けようと懸命に活動しています。2015年のネパール大地震の際には、震源地に近い地域で医療支援に奔走しました。

近年、SSSの近くに公立病院が建ち、大きな変化が訪れています。助産のライセンスは公立病院へ移行することが決まり、SSSでのお産の継続は不透明な状況。それでもランマヤさんは、家族計画支援などを通じて地域の女性たちを支え続ける覚悟です。「出産は痛みを伴うもの。でも、赤ちゃんが生まれる瞬間、家族全員が幸せになる。それに立ち会えることが、私の喜び」と語るランマヤさん。地域の人々と築いた信頼関係を大切にしながら、彼女は今日も助産師としての道を歩み続けています。



血圧を測る様子



SSSクリニックの分娩室

PHD職員に囲まれ
少し緊張気味な息子さん。
親子で元気な姿を見せてくれました！



コロナ禍で訪問が難しかったネパール。2023年と2024年ようやく現地を訪れることができました。出稼ぎ労働の圧力がある中でも、そこには地域の発展のために尽力し続ける元研修生たちの姿がありました。助産師、養鶏業、女性のエンパワメント、教育支援……それぞれの道を歩みながらも、共通するのは「学びを生かし、地域をより良くしたい」という強い思いです。ネパールの元研修生たちの今をお届けいたします。

広報・啓発担当 井上遼香＝文



ビスタさん（1期・1982年度）

第1期研修生として来日したビスタさんは、日本で養鶏と農業を学びました。帰国から約10年後にSSS（サマ・セワ・サムハ）という「社会福祉」を意味する団体を設立。保健プログラムを中心に、学校設立・道路建設・女性の収入向上プロジェクト・ネパール大地震の復興支援など幅広い分野で困難な状況にある人々の生活改善に尽力しました。外部からの支援に頼るのではなく、村人自身の力を重視した活動を行っていたそうです。

今年74歳を迎えるビスタさんは、年齢や体力の面からSSSの代表を勇退しました。「これからもSSSが地域に根差し、人々の力となること」、その思いは確かに次世代へと受け継がれています。



SSS（サマ・セワ・サムハ）



ミーティングの様子

ラメシュさん（29期・2011年度）



ラメシュさんとお子さんたち

日本では有機農業、保健衛生、住民組織化について学び、帰国後は養鶏業を営んでいます。一度はイラクで出稼ぎ労働をしていたものの、現地の治安が悪化し約8か月で帰国。その後は再び養鶏を続けています。養鶏は、最初200羽からスタートし、現在は500羽を育てています。ヒナを50ルピーで仕入れ、45日後に200ルピーで売るというビジネスです。餌にはトウモロコシや魚を使用しています。

バレーボールが得意で、研修生時代にはバレーボール大会で大活躍していたラメシュさん。現在39歳になり、11歳の息子と6歳の娘がいます。久々に再会した彼の穏やかな笑顔は、私たちの心を和ませてくれました。



ラメシュさんの鶏舎にて

スシラさん（37期・2019年度）

ゼンゼンさん

ラットリさん



スシラさんは現在26歳で、2年前にカトマンズに移住しました。日本では農業、保健衛生、人権について学び、ダリットの問題に取り組んできました。帰国後、地域はコロナ禍に見舞われ、特に食料が不足し困窮しました。PHDからの支援を受け、村人に米や油、石鹸を届けるプロジェクトのリーダーの一員として活動しました。

カトマンズへの移住を決意した理由は、子どもが障害を持っているためです。村には障害のある子どもが通える学校がなかったため、カトマンズで教育を受けさせることを選びました。夫はアチャール（漬物）を作る工場を経営し、レモンの卸売りも行っていますが、カトマンズの物価の高さにより、生活に余裕はないとのこと。スシラさんは、故郷の村に帰り、本当は農業を続けたいという強い思いを抱えています。その気持ちを涙ながらに語ってくれました。



村の自宅で作る様子



息子さんのスクールバスが到着し、お迎えに行くスシラさん。子育て奮闘中！



カンチさん（33期・2015年度）

サンティダさん

ゾンさん



タクレ村で暮らす彼女は、3年前に結婚し、現在は小学校の先生として社会を教えています。日本とネパールの教育を比較しながら学びたいと来日し、教育だけでなく、住民組織化や農業についても知識を深めました。

帰国後は、地域開発のNGO「Sagun」のスタッフとして4年間活動。そこでは主に、地震後の住民調査や復興プロジェクトを実施していました。その後は小学校の先生として子どもたちと向き合い、教壇に立つ日々を過ごしています。通勤は歩いて片道1時間半。10時から16時までの授業では、子どもたちの純粋な視点に触れ、学ぶことも多いと話します。しかし、私立の学校とは違って、公立の学校では生徒も保護者も教育熱心でないことが多い、とネパールの教育の課題に頭を抱えています。1か月に一度の保護者とのミーティングもなかなか参加しないとのこと。現在は非常勤ですが、常勤の先生になることを目標に、村の未来のため、日々努力を重ねています。



スシラさん・カンチさん・ランマヤさん

プレムさん（31期・2013年度）



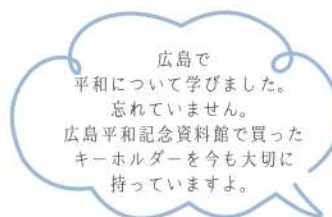
ピンタリ村の風景

今もピンタリ村で農業をしながら、家族と共に穏やかに暮らしています。若い頃から村の農業組合のリーダーを務め、地域の人々と助け合いながら働いてきました。17歳で結婚し一男二女に恵まれ、今では孫が家族に加わりました。

最近、水牛を1頭約10万円で売ったとのこと。現在飼っている水牛は新しい命を宿しています。お米は自給自足用に育てています。現在、村には140世帯、約600人が暮らし、政府の電気が通るようになりました。水は山頂のタンクから引き、生活用と農業用に分けて使われています。若者の多くが日本へ出稼ぎに行き、



村には高齢者が多く残っています。山岳地帯のため道が脆く、訪問時も雨で道が崩れていましたが、プレムさんたちが協力し、懸命に修繕してくれました。「僕が道をなおしました！」と誇らしげに話すプレムさん。自然と共にあり、助け合いながらの暮らしはこれからも続いていきます。



クンジュ・マヤさん（短期2014年度）



★★
ムクさん（32期・2014年度）の地域の
女性リーダーがクンジュ・マヤさんです！



短期研修生として2週間ほど来日しました。日本とピンタリ村の暮らしを比べながら、主に女性の人権について学びました。彼女が育った村では、学校まで片道3時間かかるため、通学を諦める子どもも多く、特に女性は家の仕事を優先せざるを得なかったとのこと。彼女もその一人でした。

彼女は今、100人ほどの女性グループのリーダーとして活動し、毎月のミーティングを通じて村の女性たちを支えています。仲間たちと道のゴミを掃除し、少しずつ貯金を積み重ね、グループでの現在の貯蓄額は約80万円。これを、水道の問題が起きた時の対応や、村人が亡くなった際の葬儀費用として活用しているそうです。学ぶ機会のなかったお母さんたちが多く中で、彼女の取り組みは地域社会に好影響を与え続けています。



居住支援 事業報告

PHD協会では、生活にお困りの外国人を対象に居住支援や就労支援、食料支援、日本語学習支援、生活相談を行っています。下半期は、緊急度や生活困窮度が高い方からの相談が多く、助成金の活用や他機関と連携しながら食料・生活支援を実施しました。また、食料配布会や日本語学習、学習支援の活動では延べ11名のボランティアの方々にお力添えを頂きながら実施しました。本稿では、これらの活動のうち下記四つをご報告いたします。

居住支援担当 田村華奈＝文

01 相談事例の紹介

—基本情報—

名前：マリアさん（仮名）

国籍：日本国籍（フィリピンルーツ）

在留資格：日本国籍（フィリピンルーツ）

家族構成：父、母（マリアさん）、長女、長男

—支援内容—

- ・不動産屋同行（賃貸契約手続きのサポート）
- ・区役所同行（子どもたちの保育園・学校探しのサポート/受給者証更新）
- ・特別支援学校同行（面談や入学前健康診断での通訳）
- ・保育園同行（加配保育士の手配、入退園手続きのサポート）

—相談までの経緯—

マリアさんの子どもが通う児童発達支援/放課後等デイサービスから引っ越しに伴う新しい保育園・学校探しの相談を受ける。

—現在のマリアさん—

マリアさんは第3子を出産、3人の子育てに奮闘する。子どもたちは、無事4月から希望していた保育園、特別支援学校へ入学する。



—基本情報—

名前：アサドさん（仮名）

国籍：バングラデシュ

在留資格：仮放免*

—支援内容—

食料、生活物資支援（食材の購入、寄贈品の提供など）

—現在のアサドさん—

難民認定再申請を行うかなど、今後のプランを検討中。

—相談までの経緯—

難民認定が不認定となり、難民事業本部から生活費として受給していた保護費も受給できなくなった。仮放免中は在留資格がなく、就労ができないため収入がない。そのため緊急を要する生活困窮者になり食料支援に関する相談を受ける。



*仮放免制度：出入国在留管理局に収容されている人が、健康、人道上またはこれらに準ずる理由がある場合に収容を一時解除される制度。

02 食料配布会の実施

食料配布会は2か月に1回のペースで実施し、計6回延べ366名の方に食料を配布しました（2024年4月～2025年2月末）。継続して参加しているネパール出身のナピナさんは、「留学生が自分の力だけで生活することはとても大変なので、この機会にとっても感謝しています」と話してくれました。



荘司さん、お米を配布しながら交流する様子

ボランティア参加者のコメント

荘司 弘祐 さん
（神戸大学大学院 国際文化学研究所）



短い時間でしたが今回の交流を通じて、様々なことを考える機会になりました。例えば、中学生の部活動として取り入れることで地域の移民と関わる機会になり、高齢の方にとっては社会とつながるきっかけになるかもしないと思いました。このような活動には、より多くの人に参加できるといいなと感じました。

03 日本語学習支援

アフガニスタンやタジキスタンの女性たちに週1回日本語教室を実施しています。生活や子育てに関する日本語を基本として、延べ102名の方に授業を行いました。（2024年4月～2025年2月末）



花岡さん、日本語ボランティアの様子

ボランティア参加者のコメント

花岡 南 さん



私は育児休暇の間にボランティアをしています。学習者の方は、子育てをしながら日本語検定合格を目指すタジキスタン出身のママさん。忙しい家事・育児の合間に熱心に日本語を学んでいて、たくさんお話をすることができます。生活スタイルが全く違う外国での子育て…。子ども達のために地域と繋がりつつ、外国語を学び続けることは簡単なことではないと思います。素敵な体験に感謝と、これからも学習者さんの学びが守られるよう願っております。

04 外国ルーツの子どもへの学習支援

週1回タジキスタン出身の男の子に漢字学習のサポートを行っています。これまで9回（2025年2月末時点）実施しており、今後も継続して苦手分野のフォローを行う予定です。



塩足さん、事務所にいた外国人たちとも交流しました



一緒に本を読む様子

ボランティア参加者のコメント

塩足 健士 さん
（関西学院大学 教育学部）



いつも勉強の前には一緒に本を読むのですが、好奇心旺盛な彼は「これどういう意味？」と尋ねてきます。また、学校で何があったか、お父さんはこんなにすごい人なんだよ、などととても楽しそうに話してくれ、日々楽しませてもらっています。



国際交流・協力シェアハウス「みんなのいえ」便り



『日々できることを誠実に』



神戸に雪のちらつく2月の寒い日、ガンビアからの困窮者がドアを叩いた。薄着で長距離を歩いて来たと笑顔で言う。聞けば3か月前から電気を止められ、その後水もガスも止められていた。水は近所の公園からもらっていると言う。携帯の充電は馴染みのファストフード店でさせてもらい、コンビニ前で無料のWi-Fiを使う。病気が原因で仕事を失ったなど諸事情を聞き自宅まで送る。坂道の多い町の古い長屋。薄い布団だけでは暖房の足しにもなるまい。電気のない中、カセットコンロで調理する1人の夕食はどれだけ寂しいことだろうか。食料を持たせ励ましながらこれだけでは全てを解決できない無力感に襲われると同時に、よくぞ今日私達の所に辿り着いてくれたと思う。

「みんなのいえ」はこんな外国人達との出逢いの連続である。小さくても今この瞬間にできることを日々ただ誠実に繰り返す。彼ら彼女らの幸せなゴールが必ず何処かにあると信じて。

みんなのいえ施設長 濱宏子=文

日々是 東奔西走

研修担当
内堀友晴

『研修生と研修担当の関係』

2024年4月から研修担当として働き始め早1年が経ちました。第40期研修生を見送り、研修生がいない事務所でポツンと仕事をしていると寂しさが込み上げてきます。1年の中で遊びに出か

けたり、共に研修を受けたり、時には喧嘩したり。長い時間を共に過ごしました。そんな中で研修生と研修担当はお互いに影響し合う関係であると感じました。

私は楽観的だと自負しています。口癖は「なんとかなる」。しかしある日、私は締め切りがある事務作業が終わらず困り果てていました。どう考えても締め切りに間に合わない。ふと愚痴を研修生に漏らすと、ミーミーがすかさず「どうにかなるよ、何言ってるの」と。「僕みたいなこと言うじゃん」と返事すると「内堀さん、いつも言ってるからね」とケラケラと笑っていました。いつの間にか私の口癖が彼女の口癖に。

逆も然り。西日本研修で体調を崩したミーミー。宿泊先の公民館でたくさんの毛布に身体を包みながらポツンと居間に座り、スマホを覗いていました。寝ずに何しているんだろうと画面を覗くと、「楽」という漢字を勉強していました。どんなときでも時間があれば漢字を勉強する彼女の勤勉さを知り、私は日本手話をもっと勉強しないといけないと深く反省しました。

研修生と研修担当は共鳴し合う仲であるべき。第40期研修生が私に教えてくれたプレゼントです。



サッカー観戦に行きました！



毛布に身体を包みながら漢字を勉強する様子



PHD 活動紹介 2024年11月～2025年2月

11月

- 1日 ボランティアのための傾聴講座 参加
西区社会福祉協議会アウトリーチ同行 (タブコラ)
- 5日 東日本研修旅行 (～9日)
- 11日 西区社会福祉協議会アウトリーチ同行 (タブコラ)
- 12日 川西市人権推進室多文化共生課アウトリーチ (タブコラ)
- 13日 篠山ロータリークラブ例会 参加
- 15日 川西ロータリークラブ例会 参加
- 18日 NGO神戸外国人救援ネット運営委員会 参加
岡山大学 講義
- 21日 フードバンク関西
西宮市協力居住支援法人登録制度に関する説明会 参加
- 22日 神戸市地域協働局 コンサルテーション (タブコラ)
居住支援団体研修会 参加
- 23日 大阪YMCA大会2024 参加
Friendship Day in Sanda 参加
- 24日 ぐるっとワールドMiki 参加
- 25日 HYOGON賀詞交歓会実行委員会 参加
- 26日 HYOMIC幹事会 参加
- 28日 和田山高校 講演
- 30日 神戸YMCA国際委員会 参加

12月

- 2日 PHD協会 財務委員会
ひょうごコミュニティ財団理事会 参加
- 3日 HIA意見交換会 (タブコラ)
PHD協会 定例会議
- 4日 PHD協会 第10回食料配布会
わたしたちの難民問題2024vol.25「ミャンマーで何が起きているのか」 参加
多文化共生セミナー 打合せ
兵庫県ユニセフ協会評議員会 参加
- 7日 ESD実践研究集会 講演
ロータリー米山記念奨学生面接選考会
神戸西ワイズメンズクラブ 交流会
- 8日 神戸YMCA街頭募金 参加
- 9日 NGO神戸外国人救援ネット運営委員会 参加
尼崎プロバスケットボール 講演
- 11日 PHD協会 2025年度計画会議
神戸NGO協議会 参加
- 12日 HYOGON運営委員会 参加
- 13日 かみかわ国際交流コミュニティ研修 (タブコラ)
- 16日 国際協力NGOの多文化共生領域への活動拡大 参加
- 17日 川西ロータリークラブ クリスマス例会 参加
コープフーズ 訪問 (タブコラ)
- 19日 かみかわ国際交流コミュニティ、小森珈琲店 訪問 (タブコラ)
- 20日 多言語センターFACILウクライナパーティー 参加
- 23日 PHD協会 定例会議
- 25日 さんだ多文化ふくふくネットワーク会議ヒアリング (タブコラ)
篠山ロータリークラブ クリスマス例会 参加

1月

- 7日 ひょうご福祉ネット居住支援連絡会 参加
三木市社協訪問 (タブコラ)
- 8日 篠山ロータリークラブ 新年例会 参加
- 10日 HYOGON運営委員会 参加
HYOMICユース 会議
- 17日 川西ロータリークラブ例会 参加
- 18日 京都女子高校 講義 (オンライン)
- 20日 NGO神戸外国人救援ネット運営委員会 参加
- 22日 西日本研修旅行 (～30日)
- 29日 ひょうご国際交流団体連絡協議会 丹波・阪神ブロック (タブコラ)
- 31日 ミャンマー祈りの会 参加

2月

- 3日 PHD協会 定例会議
インドネシアから2003年度研修生エルリナさん来日
- 4日 PHD協会 理事会・評議員会・運営協力委員会・懇親会
- 5日 篠山ロータリークラブ 講演「平和と紛争」
PHD協会 第11回食料配布会
- 6日 外務省NGOインターン・プログラム 面談
明石清水高等学校 人と環境類型 講義
- 7日 川西市社協 訪問 (タブコラ)
- 8日 川西市社会福祉協議会多文化共生パートナー養成講座 参加
- 10日 NGO神戸外国人救援ネット理事会 参加
神戸聴覚特別支援学校 訪問
NGO神戸外国人救援ネット理事会 参加
川西市社協 多文化共生調査研究チーム ミーティング (タブコラ)
- 12日 CSOのゆるやかなネットワークをつくる会 in 関西 講演
- 13日 NPO関連予算公開ヒアリング
- 14日 NGO-JICA 勉強会「NGOの成長を考える」 参加
- 15日 かみかわ国際交流コミュニティ ミーティング (タブコラ)
- 16日 丹波市外国人生活相談会
- 18日 加東市連合婦人会 交流会
- 19日 兵庫県聴覚障害者協会 訪問
- 20日 フードバンク関西
2026学年度米山記念奨学事業学校説明会 参加
- 21日 HYOGON三役会 参加
川西ロータリークラブ例会 参加
- 26日 PHD協会 定例会議



PHD協会 理事、監事、評議員、運営協力委員、合同懇親会にて (2月4日)

PHD News

2025年度研修生が来日しました！

2025年3月下旬に来日した第41期研修生たちの来日報告会を行う予定です。ネパールからの研修生は聴覚障害があり、PHD協会として聴覚障害のある研修生を招聘するのは初めての試みです。来日報告会では1年間の学びへの抱負や地域での生活の様子などを発表します。お誘いあわせの上、是非ご参加ください！

日時：2025年6月15日（日） 14：00～16：00（予定）
場所：神戸市内（決まり次第、お知らせいたします）
参加費：無料



ホストファミリー
募集継続中です!!

—期間—
2025年4月中旬～2026年3月中旬の約1年間。
（短期相談可！）
—経費—
当会規定の食費、滞在費をお支払いいたします。その他、交通費、医療費などは基本的に当会が負担します。
—応募条件—
当会事務所（神戸市長田区）から公共交通機関で1時間以内で通える範囲のご家庭。

◎お問い合わせはPHD協会まで◎
TEL：078-414-7750
E-mail：info@phd-kobe.org



★ピューピューさん



🚩ウルゲンさん



🚩ルビーさん

1年間
よろしくお願いします！

書き損じはがき、未使用切手、使用済切手などを集めています！

PHD協会では以下の物品を集めています！書き間違えた年賀状やもう使わない昔の切手など、お家にございませんか？捨ててしまう前に、是非PHD協会にお送りください。PHD運動のために大切に用いさせていただきます。

●未使用切手・はがき
当会の各種発送物の郵送料となります。

●書き損じはがき
新しい切手・はがきに交換後、各種発送物の郵送料となります。

●使用済切手
1kg=約1,000円になります。研修生の招聘・研修などの活動費となります。



～ご支援エピソード～
断捨離中に切手アルバムが出てきたとことで
総額228,240円分の切手をご寄付いただきました。

2024年度もたくさんの応援をありがとうございました！



第40期研修生帰国報告会（2025年3月1日）

〇月×日のPHD協会

濱 激辛料理が大好きだった研修生。反対に苦手な濱、興味本位で真っ赤なラーメンを食べたら一口で大汗。研修生に「これは辛いよ」と笑われる。

坂西 帰国報告会前日、修羅場のPHDにふらっとHさん来訪。なんと30年ぶり。かつての支援者、職員の方のご縁復活は嬉しい。お待ちしております。

中村 助成金担当として締切に追われた1～3月。採択を得られるよう締切直前まで粘りに粘る。提出時は書類に漏れがないか何度も確認するもドキドキ。

田村 居住支援担当としてカメルーン人の母親と保育園探しに奔走するも審査の厳しさに辟易。世の親の苦労を体験し、改めて自分の母へも感謝。

井上 毎年3回、会報作成時は修羅場。誤字脱字ゼロを目指すも、毎回失敗。リベンジに燃える負けず嫌いの井上。今年中に達成するか？乞うご期待。

内堀 誰もいない夜の事務所。ラジオに耳を傾ける。好きな曲が流れればカラオケ開始。仕事<カラオケ。当然仕事が終わらない。それでいいのか内堀。

上から、会報の原稿提出が早い順。

\\ 2025年度国内研修生募集中！ //

2025年4月から2026年3月まで、草の根の人々と共に生きるPHDの活動に関わりませんか？募集する国内研修生は研修担当と広報・啓発担当の2名です。海外出張への同行（※条件あり）、研修生の研修同行、広報活動などが経験できます。ご興味のある方はPHD協会までご連絡をお願いいたします。



空港で最後のお別れをする研修生「ありがとう」と伝え合っていました